

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

| | |
|------|-----------------|
| 学校名 | 九州中央リハビリテーション学院 |
| 設置者名 | 学校法人 立志学園 |

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 課程名 | 学科名 | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数 | 省令で定める基準単位数又は授業時数 | 配置困難 |
|----------|------------|-----------|-----------------------------|-------------------|------|
| 医療専門課程 | 作業療法学科 | 夜・通信 | 1605 単位時間 | 320 単位時間 | |
| | 理学療法学科 昼間部 | 夜・通信 | 1575 単位時間 | 320 単位時間 | |
| | 理学療法学科 夜間部 | 夜・通信 | 1515 単位時間 | 135 単位時間 | |
| | 看護学科 | 夜・通信 | 1755 単位時間 | 240 単位時間 | |
| 教育社会福祉課程 | 介護福祉学科 | 夜・通信 | 1350 単位時間 | 160 単位時間 | |
| (備考) | | | | | |

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

| |
|--|
| 学院ホームページ上に公表 http://urx.space/kmgw |
|--|

3. 要件を満たすことが困難である学科

| |
|-----------|
| 学科名 |
| (困難である理由) |

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

| | |
|------|-----------------|
| 学校名 | 九州中央リハビリテーション学院 |
| 設置者名 | 学校法人 立志学園 |

1. 理事（役員）名簿の公表方法

| |
|---|
| 学院ホームページ上に公表 http://www.kcr.ac.jp/information/images/riji.pdf |
|---|

2. 学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容 や期待する役割 |
|----------|-------------|----------------------------|----------------------|
| 非常勤 | 医療法人 理事長 | 2021. 4. 1～ 2023. 3. 31 | 人材育成に対する チェック機能 |
| 非常勤 | 民間放送会社 特別顧問 | 2021. 4. 1～ 2023. 3. 31 | 学校法人運営に対 するチェック機能 |
| (備考) | | | |

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|------|-----------------|
| 学校名 | 九州中央リハビリテーション学院 |
| 設置者名 | 学校法人 立志学園 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

| | |
|--|---|
| <p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> | |
| <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画については、関係者からなる教育課程編成委員会において授業実績をふまへ次年度の授業計画作成にあたって意見交換し方針を策定する。出された意見や方針に基づき担当講師が授業計画を作成し、学科会議、運営会議を経て最終決定する。作成された授業計画は年度初めのオリエンテーションにおいて学生に周知、説明を行っている。</p> <p>また3月中旬には学院のホームページを活用し、シラバス、教育課程ともに閲覧可能となっている。</p> | |
| 授業計画書の公表方法 | http://urx.space/yw0u |
| <p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> | |
| <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業科目においては、あらかじめシラバスに明記する方法により厳格かつ適正に履修認定を行っており、各授業科目の単位認定基準は以下の通りである。 ・各科目の成績評価は筆記試験、実技試験、レポート成績及び出席状況を総合的に判断し、AA・A・B・C・Fの表示にて記録し、学院長へ報告する。 ・評定区分は次に定める通りとし、C以上を合格とする。 <p>①AA・・・100～90点 ②A・・・89～80点 ③B・・・79～70点 ④C・・・69～60点 ⑤F・・・59点以下</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合格者には所定の単位を認定する。 ・再試験の成績評価は、その再試験の結果が60点を超えた場合はCとして扱う。 | |

| | |
|--|--|
| <p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学生の学習成績については学則並びに各学科細則に従い、以下の方法により算出した指標によって評価を行っており、この指標の算出方法についてはホームページで公開している。成績評価においては、1年間の全ての試験終業後に学科学年ごとにその学生が履修した授業科目全ての試験点数の平均点数(100点満点)により、学年順位を算出し、そのデータを基に成績評価並びに進級を決定している。</p> <p>成績の分布状況についても、上記の算出方法により算出した指標により把握している。</p> | |
| <p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p> | <p>http://www.kcr.ac.jp/information/images/seiseki.pdf</p> |
| <p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校においては医療・福祉に関する技能を身につけた人材の育成を目的としており、学則等に定める所定の時間在学习し、各学科の教育課程に定める単位時間の成績を修めることを卒業の要件としている。詳細については学則並びに各学科細則に規定しており、学生の卒業認定についてもこれらの規定に従い適切に実施している。各学科のディプロマ・ポリシーは下記のとおりである。ディプロマ・ポリシーについては本校のホームページ上で公開している。</p> <p>【作業療法学科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生命の尊厳、他者への思いやりや優しさを基本に医療人としての倫理観を育成する。 2) 社会人としての調和のとれた個性の育成を図る。 3) より専門的な知識・技能の習得を図る。 4) コミュニケーション能力を持ち、他者と協調し、自己の責任を全うできる人材の育成を図る。 <p>【理学療法学科(昼間部)(夜間部)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 理学療法士の仕事に誇りをもって取り組むことができる人 2) 理学療法士として必要な知識・技能を身につけ、臨床で活躍できる人 3) 社会性を育み、チームアプローチに必要なコミュニケーション力がある人 4) 理学療法を包括的に考え、理学療法の発展に寄与する研究活動ができる人 <p>【看護学科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間としての権利を尊重して行動できる心豊かな人間性が身につけている | |

- 2) 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解できる
- 3) 人の健康上の援助を行うため、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力が身についている
- 4) 保健・医療・福祉を総合的に理解し、保健医療福祉チームの一員として看護の役割と責任を果たす基礎的能力が身についている
- 5) 多様に変化している社会情勢を認識し、国際的視野で看護ができる基礎能力が身についている
- 6) 看護の専門職業人として倫理観を持ち、自己研鑽に努め看護を探究する態度が身についている

【介護福祉学科】

- 1) 心豊かな人間性を養い、専門職である介護福祉士として知識や技術を兼ね備えた介護プロフェッショナルとして働ける力を習得すること
- 2) あらゆる介護場面に必要とされる円滑なコミュニケーション能力を身につけ、他職種協働によるチームアプローチの的確な記録・記述の方法を身につけること
- 3) 他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につけ、問題解決能力を養い、どのような事態に遭遇しても的確な対応ができる能力を身につけること

| | |
|-------------------------|---|
| <p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p> | <p>作業療法学科：http://www.kcr.ac.jp/department_ot 理学療法学科昼間部：http://www.kcr.ac.jp/department_pt 理学療法学科夜間部：http://www.kcr.ac.jp/department_ptn 看護学科：http://www.kcr.ac.jp/department_ns 介護福祉学科：http://www.kcr.ac.jp/department_cw</p> |
|-------------------------|---|

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

| | |
|------|-----------------|
| 学校名 | 九州中央リハビリテーション学院 |
| 設置者名 | 学校法人 立志学園 |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|--------------|---|
| 貸借対照表 | http://www.kcr.ac.jp/information/images/taisyuu.pdf |
| 収支計算書又は損益計算書 | http://www.kcr.ac.jp/information/images/syuusi.pdf |
| 財産目録 | http://www.kcr.ac.jp/information/images/zaisan.pdf |
| 事業報告書 | http://www.kcr.ac.jp/information/images/jigyo.pdf |
| 監事による監査報告（書） | http://www.kcr.ac.jp/information/images/kansa.pdf |

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | |
|----------|----|---------------------------|---------------|--------------|--------------|----------|----------|
| 医療 | | 医療専門課程 | 作業療法学科 | | ○ | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 4年 | 夜 | 3750 単位時間 | 2190 単 位時間 | 570 単 位時間 | 990 単 位時間 | 単位時 間 | 単位時 間 |
| | 昼 | | 3750 単位時間 | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 160人 | | 122人 | 0人 | 6人 | 17人 | 23人 | |

| |
|---|
| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
| （概要） 授業計画については、関係者からなる教育課程編成委員会において授業実績をふまえ次年度の授業計画作成にあたって意見交換し方針を策定する。出された意見や方針に基づき担当講師が授業計画を作成し、学科会議、運営会議を経て最終決定する。 作成された授業計画は年度初めのオリエンテーションにおいて学生に周知、説明を行っている。また3月中旬には学院のホームページを活用し、シラバス、教育課程ともに閲覧可能となっている。 |
| 成績評価の基準・方法 |
| （概要） ・各授業科目においては、あらかじめシラバスに明記する方法により厳格かつ適正に履修認定を行っており、各授業の単位認定基準は下記の通りである。 ・各科目の成績判定は筆記試験、実技試験、レポート成績及び出席状況を総合的に判断し、AA・A・B・C・Fの表示にて記録し、学院長へ報告する。 ・評定区分は次に定める通りとし、C以上を合格とする。 ①AA・・・100～90点 ②A・・・89～80点 ③B・・・79～70点 ④C・・・69～60点 |

| |
|---|
| <p>⑤F・・・59点以下</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合格者には所定の単位を認定する。 ・再試験の成績評定は、その再試験の結果が60点を超えた場合はCとして扱う。 |
| <p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>本校においては医療に関する技能を身につけた人材の育成を目的としており、学則等に定める所定の時間在学习し、教育課程に定める単位時間の成績を修めることを卒業の要件としている。詳細については学則並びに細則に規定しており、学生の卒業認定についてもこれらの規定に従い適切に実施している。ディプロマ・ポリシーは下記の通りである。ディプロマ・ポリシーについては本校のホームページ上で公開している。</p> <p>【作業療法学科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生命の尊厳、他者への思いやりや優しさを基本に医療人としての倫理観を育成する。 2) 社会人としての調和のとれた個性の育成を図る。 3) より専門的な知識・技能の習得を図る。 4) コミュニケーション能力を持ち、他者と協調し、自己の責任を全うできる人材の育成を図る。 |
| <p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>担任・副担任性を導入、授業を通して全教員の早期の関わりを持つ。</p> <p>高等学校を定年退職した先生と定期的に面談を行い、学習の進み具合や勉強の取り組み方について確認を行う。</p> |

| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
|--|-----------|-------------------|------------|
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 28人 (100%) | 0人 (%) | 26人 (92%) | 2人 (8%) |
| (主な就職、業界等) | | | |
| 医療施設（病院、クリニック等） | | | |
| (就職指導内容) | | | |
| メール配信による求人情報の提供、求人票の閲覧コーナーを図書室に配置、その他求人票に関する質問・相談窓口を設け担任を中心に対応。履歴書の書き方、面接指導を行なう。 | | | |
| (主な学修成果（資格・検定等）) | | | |
| 作業療法士国家試験受験資格、福祉住環境コーディネーター2級資格取得の支援と奨励 | | | |
| (備考) (任意記載事項) | | | |

| 中途退学の現状 | | |
|--|----------------|-----|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 123 人 | 10 人 | 8% |
| (中途退学の主な理由) 学業成績の問題、経済的理由 | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) 欠席した場合、本人、保護者並びに担任に通知する欠席連絡メールシステムを導入し授業の出席を促す。前期、後期の試験以外に小テストを行い習得の状況を把握する。 | | |

①学科等の情報

| | | | | | | | |
|----------|----|---------------------------|---------------|------------------|------------------|----------|----------|
| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | |
| 医療 | | 医療専門課程 | 理学療法学科昼間部 | | ○ | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 4年 | 昼 | 3780 単位時間 | 2160 単 位時間 | 720 単 位 時間 | 900 単 位 時間 | 単位時 間 | 単位時 間 |
| | | | 3780 単位時間 | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 320 人 | | 209 人 | 0 人 | 8 人 | 20 人 | 28 人 | |

| |
|--|
| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
| <p>（概要）</p> <p>授業計画については、関係者からなる教育課程編成委員会において授業実績をふまえ次年度の授業計画作成にあたって意見交換し方針を策定する。出された意見や方針に基づき担当講師が授業計画を作成し、学科会議、運営会議を経て最終決定する。</p> <p>作成された授業計画は年度初めのオリエンテーションにおいて学生に周知、説明を行っている。また3月中旬には学院のホームページを活用し、シラバス、教育課程ともに閲覧可能となっている。</p> |
| 成績評価の基準・方法 |
| <p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各授業科目においては、あらかじめシラバスに明記する方法により厳格かつ適正に履修認定を行っており、各授業の単位認定基準は下記の通りである。 各科目の成績評定は筆記試験、実技試験、レポート成績及び出席状況を総合的に判断し、AA・A・B・C・Fの表示にて記録し、学院長へ報告する。 評定区分は次に定める通りとし、C以上を合格とする。 <p>①AA・・・100～90点 ②A・・・89～80点 ③B・・・79～70点 ④C・・・69～60点 ⑤F・・・59点以下</p> <ul style="list-style-type: none"> 合格者には所定の単位を認定する。 再試験の成績評定は、その再試験の結果が60点を超えた場合はCとして扱う。 |
| 卒業・進級の認定基準 |
| <p>（概要）</p> <p>本校においては医療に関する技能を身につけた人材の育成を目的としており、学則等に定める所定の時間在学习し、教育課程に定める単位時間の成績を修めることを卒業の要件としている。詳細については学則並びに細則に規定しており、学生の卒業認定についてもこれらの規定に従い適切に実施している。ディプロマ・ポリシーは下記の通りである。ディプロマ・ポリシーについては本校のホームページ上で公開している。</p> <p>【理学療法学科昼間部】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 理学療法士の仕事に誇りをもって取り組むことができる人 2) 理学療法士として必要な知識・技能を身につけ、臨床で活躍できる人 |

| |
|---|
| 3) 社会性を育み、チームアプローチに必要なコミュニケーション力がある人 4) 理学療法を包括的に考え、理学療法の発展に寄与する研究活動ができる人 |
| 学修支援等 |
| (概要) 1 科目 90 分に構成し授業の集中できる環境づくりを行っている。小テストを実施し学習の成果を確認。演習の科目を設け授業の進行に合わせて復習する時間を設ける。高等学校を定年退職した先生と定期的に面談を行い、学習の進み具合や勉強の取り組み方について確認を行う。 |

| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
|--|--------------|-------------------|----------------|
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 37 人 (100%) | 0 人 (0%) | 26 人 (70%) | 11 人 (30%) |
| (主な就職、業界等) 医療施設（病院、クリニック等） | | | |
| (就職指導内容) メール配信による求人情報の提供、求人票の閲覧コーナーを図書室に配置、その他求人票に関する質問・相談窓口を設け担任を中心に対応。履歴書の書き方、面接指導を行なう。 | | | |
| (主な学修成果（資格・検定等）) 理学療法士国家試験受験資格、福祉住環境コーディネーター、 レッドコードベーシックコース | | | |
| (備考)（任意記載事項） | | | |

| 中途退学の現状 | | |
|--|----------------|-----|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 223 人 | 26 人 | 11% |
| (中途退学の主な理由) 学業成績の問題、進路変更、経済的理由 | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) 欠席した場合、本人、保護者並びに担任に通知する欠席連絡メールシステムを導入し授業の出席を促す。前期、後期の試験以外に小テストを行い習得の状況を把握する。 | | |

①学科等の情報

| | | | | | | | |
|----------|----|---------------------------|---------------|-------------|--------------|----------|----------|
| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | |
| 医療 | | 医療専門課程 | 理学療法学科夜間部 | ○ | | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 3年 | 夜 | 3180 単位時間 | 2190 単 位時間 | 90 単位 時間 | 900 単位 時間 | 単位時 間 | 単位時 間 |
| | | | 3180 単位時間 | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 120 人 | | 76 人 | 0 人 | 4 人 | 22 人 | 26 人 | |

| |
|--|
| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
| <p>（概要）</p> <p>授業計画については、関係者からなる教育課程編成委員会において授業実績をふまえ次年度の授業計画作成にあたって意見交換し方針を策定する。出された意見や方針に基づき担当講師が授業計画を作成し、学科会議、運営会議を経て最終決定する。</p> <p>作成された授業計画は年度初めのオリエンテーションにおいて学生に周知、説明を行っている。また3月中旬には学院のホームページを活用し、シラバス、教育課程ともに閲覧可能となっている。</p> |
| 成績評価の基準・方法 |
| <p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各授業科目においては、あらかじめシラバスに明記する方法により厳格かつ適正に履修認定を行っており、各授業の単位認定基準は下記の通りである。 各科目の成績評定は筆記試験、実技試験、レポート成績及び出席状況を総合的に判断し、AA・A・B・C・Fの表示にて記録し、学院長へ報告する。 評定区分は次に定める通りとし、C以上を合格とする。 <p>①AA・・・100～90点 ②A・・・89～80点 ③B・・・79～70点 ④C・・・69～60点 ⑤F・・・59点以下</p> <ul style="list-style-type: none"> 合格者には所定の単位を認定する。 再試験の成績評定は、その再試験の結果が60点を超えた場合はCとして扱う。 |
| 卒業・進級の認定基準 |
| <p>（概要）</p> <p>本校においては医療に関する技能を身につけた人材の育成を目的としており、学則等に定める所定の時間在学习し、教育課程に定める単位時間の成績を修めることを卒業の要件としている。詳細については学則並びに細則に規定しており、学生の卒業認定についてもこれらの規定に従い適切に実施している。ディプロマ・ポリシーは下記の通りである。ディプロマ・ポリシーについては本校のホームページ上で公開している。</p> <p>【理学療法学科夜間部】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 理学療法士の仕事に誇りをもって取り組むことができる人 2) 理学療法士として必要な知識・技能を身につけ、臨床で活躍できる人 |

| |
|--|
| 3) 社会性を育み、チームアプローチに必要なコミュニケーション力がある人 4) 理学療法を包括的に考え、理学療法の発展に寄与する研究活動ができる人 |
| 学修支援等 |
| (概要) 1科目90分に構成し授業の集中できる環境づくりを行っている。小テストを実施し学習の成果を確認。演習の科目を設け授業の進行に合わせて復習する時間を設ける。 |

| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
|--|-----------|-------------------|-------------|
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 30人 (100%) | 0人 (%) | 24人 (80%) | 6人 (20%) |
| (主な就職、業界等) 医療施設（病院、クリニック等） | | | |
| (就職指導内容) メール配信による求人情報の提供、求人票の閲覧コーナーを図書室に配置、その他求人票に関する質問・相談窓口を設け担任を中心に対応。履歴書の書き方、面接指導を行なう。 | | | |
| (主な学修成果（資格・検定等）) 理学療法士国家試験受験資格、福祉住環境コーディネーター、 レッドコードベーシックコース | | | |
| (備考)（任意記載事項） | | | |

| 中途退学の現状 | | |
|--|----------------|-----|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 83人 | 12人 | 14% |
| (中途退学の主な理由) 学業成績の問題、進路変更、経済的理由 | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) 欠席した場合、本人、保護者並びに担任に通知する欠席連絡メールシステムを導入し授業の出席を促す。前期、後期の試験以外に小テストを行い習得の状況を把握する。 | | |

①学科等の情報

| | | | | | | | |
|----------|----|---------------------------|---------------|--------------|---------------|----------|----------|
| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | |
| 医療 | | 医療専門課程 | 看護学科 | ○ | | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 3年 | 昼 | 3000 単位時間 | 1785 単 位時間 | 180 単位 時間 | 1035 単 位時間 | 単位時 間 | 単位時 間 |
| | | | 3000 単位時間 | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 240 人 | | 241 人 | 0 人 | 12 人 | 57 人 | 69 人 | |

| |
|--|
| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
| <p>（概要）</p> <p>授業計画については、関係者からなる教育課程編成委員会において授業実績をふまえ次年度の授業計画作成にあたって意見交換し方針を策定する。出された意見や方針に基づき担当講師が授業計画を作成し、学科会議、運営会議を経て最終決定する。</p> <p>作成された授業計画は年度初めのオリエンテーションにおいて学生に周知、説明を行っている。また3月中旬には学院のホームページを活用し、シラバス、教育課程ともに閲覧可能となっている。</p> |
| 成績評価の基準・方法 |
| <p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各授業科目においては、あらかじめシラバスに明記する方法により厳格かつ適正に履修認定を行っており、各授業の単位認定基準は下記の通りである。 各科目の成績評定は筆記試験、実技試験、レポート成績及び出席状況を総合的に判断し、AA・A・B・C・Fの表示にて記録し、学院長へ報告する。 評定区分は次に定める通りとし、C以上を合格とする。 <p>①AA・・・100～90点 ②A・・・89～80点 ③B・・・79～70点 ④C・・・69～60点 ⑤F・・・59点以下</p> <ul style="list-style-type: none"> 合格者には所定の単位を認定する。 再試験の成績評定は、その再試験の結果が60点を超えた場合はCとして扱う。 |
| 卒業・進級の認定基準 |
| <p>（概要）</p> <p>本校においては医療に関する技能を身につけた人材の育成を目的としており、学則等に定める所定の時間在学习し、教育課程に定める単位時間の成績を修めることを卒業の要件としている。詳細については学則並びに細則に規定しており、学生の卒業認定についてもこれらの規定に従い適切に実施している。ディプロマ・ポリシーは下記の通りである。ディプロマ・ポリシーについては本校のホームページ上で公開している。</p> <p>【看護学科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間としての権利を尊重して行動できる心豊かな人間性が身につけている 2) 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解できる |

| |
|---|
| <p>3) 人の健康上の援助を行うため、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力が身についている</p> <p>4) 保健・医療・福祉を総合的に理解し、保健医療福祉チームの一員として看護の役割と責任を果たす基礎的能力が身についている</p> <p>5) 多様に変化している社会情勢を認識し、国際的視野で看護ができる基礎能力が身についている</p> <p>6) 看護の専門職業人として倫理観を持ち、自己研鑽に努め看護を探求する態度が身についている</p> |
| 学修支援等 |
| <p>(概要)</p> <p>学習方法の個別指導や学力試験・模擬試験を実施している。1年次には解剖の小テストを実施。また、施設利用について開校時間外に朝夕設けて、技術や勉学の取り組める支援体制を整えている。</p> |

| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
|-----------------------------------|-----------|-------------------|------------|
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 64人 (100%) | 0人 (%) | 60人 (94%) | 4人 (6%) |
| (主な就職、業界等) 熊本県内外の医療機関 | | | |
| (就職指導内容) 就職説明会の案内表示・就職担当との面談実施 | | | |
| (主な学修成果(資格・検定等)) 看護師国家試験受験資格 | | | |
| (備考) (任意記載事項) | | | |

| 中途退学の現状 | | |
|--|----------------|-----|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 236人 | 18人 | 7% |
| (中途退学の主な理由) 学業成績の問題、進路変更 | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) 担任による学生の出席状況の確認。各学年朝礼終礼を行い学生の状況確認。担任との二者面談、三者面談の実施。スクールカウンセラーを設置し精神面も支援を行っている。 | | |

①学科等の情報

| | | | | | | | |
|----------|----|---------------------------|---------------|------------------|------------------|----------|----------|
| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | |
| 教育社会福祉 | | 教育社会福祉 専門課程 | 介護福祉学科 | ○ | | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2年 | 昼 | 1995 単位時間 | 1005 単 位時間 | 495 単 位 時間 | 495 単 位 時間 | 単位時 間 | 単位時 間 |
| | | | 1995 単位時間 | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 80人 | | 67人 | 21人 | 3人 | 17人 | 20人 | |

| |
|--|
| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
| <p>（概要）</p> <p>授業計画については、関係者からなる教育課程編成委員会において授業実績をふまえた年度の授業計画作成にあたって意見交換し方針を策定する。出された意見や方針に基づき担当講師が授業計画を作成し、学科会議、運営会議を経て最終決定する。</p> <p>作成された授業計画は年度初めのオリエンテーションにおいて学生に周知、説明を行っている。また3月中旬には学院のホームページを活用し、シラバス、教育課程ともに閲覧可能となっている。</p> |
| 成績評価の基準・方法 |
| <p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各授業科目においては、あらかじめシラバスに明記する方法により厳格かつ適正に履修認定を行っており、各授業の単位認定基準は下記の通りである。 各科目の成績評定は筆記試験、実技試験、レポート成績及び出席状況を総合的に判断し、AA・A・B・C・Fの表示にて記録し、学院長へ報告する。 評定区分は次に定める通りとし、C以上を合格とする。 <p>①AA・・・100～90点 ②A・・・89～80点 ③B・・・79～70点 ④C・・・69～60点 ⑤F・・・59点以下</p> <ul style="list-style-type: none"> 合格者には所定の単位を認定する。 再試験の成績評定は、その再試験の結果が60点を超えた場合はCとして扱う。 |
| 卒業・進級の認定基準 |
| <p>（概要）</p> <p>本校においては医療に関する技能を身につけた人材の育成を目的としており、学則等に定める所定の時間在学习し、教育課程に定める単位時間の成績を修めることを卒業の要件としている。詳細については学則並びに細則に規定しており、学生の卒業認定についてもこれらの規定に従い適切に実施している。ディプロマ・ポリシーは下記の通りである。ディプロマ・ポリシーについては本校のホームページ上で公開している。</p> <p>【介護福祉学科】</p> <p>1) 心豊かな人間性を養い、専門職である介護福祉士として知識や技術を兼ね備えた</p> |

| |
|---|
| <p>介護プロフェッショナルとして働ける力を習得すること</p> <p>2) あらゆる介護場面に必要とされる円滑なコミュニケーション能力を身につけ、他職種協働によるチームアプローチの的確な記録・記述の方法を身につけること</p> <p>3) 他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につけ、問題解決能力を養い、どのような事態に遭遇しても的確な対応ができる能力を身につけること</p> |
| 学修支援等 |
| <p>(概要)</p> <p>前期及び後期末に定期試験が行われている。単位習得基準に満たさなかった学生においては、再試験、再々試験を行っている。特に1年次の学生に対しては、授業の進捗状況に伴い小テストを行い学習の成果を確認し、細やかなフォローを行っている。</p> |

| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
|---------------------------------|-----------|-------------------|-----------|
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 （自営業を含む。） | その他 |
| 17人 (100%) | 0人 (%) | 17人 (100%) | 0人 (%) |
| (主な就職、業界等) | | | |
| 介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、障がい者支援施設 | | | |
| (就職指導内容) | | | |
| 履歴書指導、面接指導、小論文指導、一般常識試験対策等 | | | |
| (主な学修成果（資格・検定等）) | | | |
| 介護福祉士、福祉住環境コーディネーター、認知症コーディネーター | | | |
| (備考)（任意記載事項） | | | |

| 中途退学の現状 | | |
|--|----------------|-----|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 57人 | 1人 | 1% |
| (中途退学の主な理由) | | |
| 学業成績の問題 | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) | | |
| 欠席と成績の相関性が高いことから、出席状態の改善を意識している。また、随時保護者に連絡を行い、必要によっては、担任、学科長、本人、保護者との面談を行い指導している。 | | |
| スクールカウンセラーを設置しており精神面での支援を行っている。 | | |

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

| 学科名 | 入学金 | 授業料 (年間) | その他 | 備考 (任意記載事項) |
|---------------|-----------|-------------|-----------|-------------|
| 作業療法学科 | 300,000 円 | 600,000 円 | 450,000 円 | |
| 理学療法学科 | 300,000 円 | 600,000 円 | 450,000 円 | |
| 理学療法学科 夜間部 | 300,000 円 | 500,000 円 | 450,000 円 | |
| 看護学科 | 200,000 円 | 520,000 円 | 320,000 円 | |
| 介護福祉学科 | 150,000 円 | 480,000 円 | 200,000 円 | |
| 国際介護学科 | 50,000 円 | 150,000 円 | 100,000 円 | |
| 修学支援 (任意記載事項) | | | | |
| | | | | |

b) 学校評価

| | | |
|--|------------------------|----------|
| 自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.kcr.ac.jp/information/images/jikotenken.pdf | | |
| 学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 評価委員の構成：関連業界の代表者、関連企業の代表者、地域住民、卒業生、保護者代表 によって構成 (6名) 評価項目：①教育理念・目的・育成人材像等②学校運営③教育活動④教育成果⑤学生支援 ⑥教育環境⑦学生の募集と受け入れ⑧財務⑨法令等の遵守⑩社会貢献について評価を行 う。自己評価結果は理事会に報告され、評価点数の低い項目については運営会議及び学科 会議にて共有し学校関係者評価担当者を実行責任者として学科単位で改善方法を検討し見 直しを行う。 尚、学校関係者評価については本校のホームページ上で公開している。 | | |
| 学校関係者評価の委員 | | |
| 所属 | 任期 | 種別 |
| 県理学療法士協会理事 | 2022. 4. 1～2024. 3. 31 | 関連業界代表者 |
| 小規模多機能型介護住宅管理者 | 2022. 4. 1～2024. 3. 31 | 関連企業の代表者 |
| 医療機関の看護部長 | 2022. 4. 1～2024. 3. 31 | 関連企業の代表者 |
| 自治会長 | 2022. 4. 1～2024. 3. 31 | 地域の住民代表 |
| 後援会会長 | 2022. 4. 1～2024. 3. 31 | 保護者代表者 |
| 同窓会会長 | 2022. 4. 1～2024. 3. 31 | 卒業生代表者 |
| 学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.kcr.ac.jp/information/images/hyouka.pdf | | |
| 第三者による学校評価 (任意記載事項) | | |
| | | |

c) 当該学校に係る情報

| |
|--|
| (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.kcr.ac.jp/information |
|--|

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

| | |
|------|-----------------|
| 学校名 | 九州中央リハビリテーション学院 |
| 設置者名 | 学校法人 立志学園 |

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

| | | 前半期 | 後半期 | 年間 |
|--------------------|------|------|------|------|
| 支援対象者（家計急変による者を除く） | | 128人 | 113人 | 241人 |
| 内 訳 | 第Ⅰ区分 | 77人 | 70人 | |
| | 第Ⅱ区分 | 33人 | 28人 | |
| | 第Ⅲ区分 | 18人 | 15人 | |
| 家計急変による支援対象者（年間） | | | | 0人 |
| 合計（年間） | | | | 241人 |
| (備考) | | | | |

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|----|----|
| 年間 | 0人 |
|----|----|

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

| | 右以外の大学等 | | |
|--|---------|-----|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修業年限で卒業又は修了できないことが確定 | 一人 | 人 | 人 |
| 修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下) | 0人 | 人 | 人 |
| 出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況 | 0人 | 人 | 人 |
| 「警告」の区分に連続して該当 | 一人 | 人 | 人 |
| 計 | 一人 | 人 | 人 |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

| 右以外の大学等 | | 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | | | |
|---------|----|---|---|-----|---|
| 年間 | 0人 | 前半期 | 人 | 後半期 | 人 |
| | | | | | |

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 退学 | 一人 |
| 3月以上の停学 | 0人 |
| 年間計 | 一人 |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 3月未満の停学 | 0人 |
| 訓告 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。） | |
|---|---------|---|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下) | 0人 | 人 | 人 |
| GPA等が下位4分の1 | 一人 | 人 | 人 |
| 出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況 | 0人 | 人 | 人 |
| 計 | 一人 | 人 | 人 |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。